

2/28 10時からの いじめプロジェクトは都合により延期しますのでよろしくお願ひいたします

滋賀県民主教育研究所 2014年度 研究集会

テーマ

今日の学校・教師の抱える苦悩 希望をどこに見出すか

◇とき 2015年2月28日(土)

12:30受付 13:00開会～16:00閉会

資料代500円

◇会場 滋賀大学 大津サライト・プラザ
(JR大津駅前の日本生命ビル4F)

1 趣旨説明(事務局)

2 シンポジウム(現場の教員)

「子どもとともに生きる教師その希望」

小学校現場から古川恵理さん

中学校現場から 今宿 博樹さん

高校現場から 藤本幹人さん

コーディネーター

福井 雅英さん(滋賀県立大学)

3 質疑・応答

4 まとめ



◆格差社会とは、一部に富み集中し他方に貧困、その格差が広がる社会。日本社会は、一年間働いても200万円以下で生活することを強いられる人が1000万人。子どもの貧困率は16.3%、6人に1人の割合。学校は、貧困・虐待・生きにくさを抱える子どもが増えて当然。子どものイライラ・むかつきは募り、奇声・暴言・学習からの逃避の言動で、他者に向かって自分を表現する子どもがどの教室にも存在している。こうした子どもの内面の真実を聴き取る教師でありたい。

◆しかし学校は、2014全国一斉学力テスト結果が公表された後、各学校に「学力向上体制」が押し寄せられている。過去問の繰り返し、ドリル学習。「高い得点を取れる」教師像が理想化し県内すべての教師に

学力競争主義への同調が強められてきている。そこに靖国型「教科道徳」の押し付け。

◆昨年は「テストもないのに勉強する」フィンランドの教育が紹介された。教育の面白さの追求。一方日本の教育は事細かくマニュアル化され効率優先、ドリル重視。さらに点数の公表で学校間、教師間競争させる。

それに、教師の多忙化が加わる。

◆今回3人の県下の実践者から、「学校・教師が抱える苦悩とは何か、その苦悩にどのように向き合っているのか、教師にとっての希望をどのように見出そうとしているのか」語ってもらう。コーディネーターからは、教師の苦悩がもたらさせる背景と、教師の苦悩を希望に組み替えるための視点を語ってもらう。

福井雅英さんのプロフィール

■滋賀県立大学特任教授

臨床教育学会副代表

中学校実践をもとに子ども理解を深める「子どもカンファレンス」を提唱。今日の子どもの言動に苦悩する全国の教師から講演要請を受け、全国各地で講演。

著書

「子ども理解のカンファレンス—育ちを支える現場の臨床教育学」かもがわ出版 2009

本郷地域教育計画の研究—戦後改革期における教育課程編成と教師 学文社 2005 そのほか雑誌『教育』『作文と教育』等

◆どなたでも参加いただけます。多くの方のご来場と討論への参加をお待ちしています。

主催 滋賀県民主教育研究所

(略称/滋賀民研)

大津市朝日が丘1-11-3 教文会館2F

tell & fax 077-525-5364

(不在時、080-3861-7466本田)

e-mail:shiga.minken@gmail.com

